

保護者の皆様

本校の教育活動に関するアンケートにご協力いただき、誠にありがとうございました。
 本年度の学校教育評価を下記の通り公表させていただきます。
 今回の結果を、次年度の学校経営に生かしていきたいと思っておりますので、今後とも何卒宜しくお願い申し上げます。

芦原小学校長 山岸 直樹

令和5年度 芦原小学校学校評価書

▲は目標指数を達成できなかった項目

項目	具体的取組	評価者	質問内容	目標指数 (%)	結果 (%)	成果と課題	改善策・向上策	学校関係者評価	
健康・安全	家庭と連携し、「早寝・早起き・しっかり朝ごはん」の定着に取り組む	教職員	児童や家庭に啓発を積極的に行った	90	93	・今年度も外部講師を招いての睡眠学習を行い、保護者にも公開した。睡眠学習実施直後に行った「早寝・早起き・しっかり朝ごはん」週間のチェックでは、数値が上がっていたので、この授業を受けたことによって、意識づけがされたと思われる。 ・6年生では、食生活推進委員を招いて朝ごはんを作り、朝ごはんの大切さを学んだ。 ・「早寝・早起き・しっかり朝ごはん」のうち、1つでもできていないものがあると「できていない」と答えることによるため、子ども達の数値が低くなっていると思われる。	・早寝、早起きの意識づけのためにも、次年度以降も外部講師による睡眠の大切さを学ぶ授業を実施する。また、「早寝・早起き・しっかり朝ごはん」週間も引き続き設定し、年3回チェック表の記録を行う。 ・朝ごはんの大切さについて学ぶ機会を6年生以外の学年でも設ける。	・「早寝・早起き・しっかり朝ごはん」に今年度も継続して取り組み、外部指導者による「眼育」や食生活改善推進員との体験などを通して成果をあげておりありがたいことだと思う。「児童は一つでもできていないと評価が低くなる」との分析があるので、できていないと感じている項目に焦点を当てた取組を工夫してはいかかか。 ・簡単なことのように小学生にとっては「早寝・早起き・しっかり朝ごはん」が難しいことなのだろうか。 ・正しい理解と自覚の取り組みをお願いする。規則正しい生活習慣により、学習意欲、体力、気力が生まれる。早起き・朝ごはんではよく噛んで食べることで体が覚醒する。	
		児童	「早寝・早起き・しっかり朝ごはん」ができています	90	81▲				
		保護者	できていると思う	80	83				
	健康安全指導と防災訓練を通して、危険から身を守る力を高める	家庭と連携し、情報モラル学習とスマートルールの啓発を行う	教職員	きめられた約束事の指導を熱心に行った	90	100	・教職員による日常的な指導、保健指導等で継続的に健康安全指導を行うことができた。 ・防災訓練では、地震による火災や津波を想定した訓練を実施した。様々な状況を想定した訓練を実施することができた。 ・情報モラル学習やスマートルールについては、家庭と連携して定着を図ることができた。	・情報モラル教育とスマートルールについては、今後も児童及び保護者にその重要性を周知していく。防災避難訓練は様々な状況を想定した実践的な訓練を実施することで、児童一人ひとりの危険から身を守る力を高めていく。 ・引き渡し訓練をより具体的な場面を想定し実施する。	・防災教育や情報モラル教育の評価が高いことは、今日の社会情勢を考えると素晴らしい成果である。多様な場面で想定し、自らを守る判断力、行動力を培う取組や引渡し訓練の工夫など変化をもたせながらの継続も素晴らしい。 ・身近で大地震があったことでより大切さを感じたことと思う。より具体的な有効な訓練を今後も実施されることを希望する。 ・先日、地震が起こったときには、子どもの方が大人より冷静に身を守っていて、日ごろの訓練のおかげだと感じた。 ・避難する際の「おかしもち」を合言葉に自分自身の身は自分で守ること、そして、互いに助け合うことの重要性を教えてほしい。
			児童	きめられている約束事をいつも守っている	95	97			
			保護者	約束事をいつも守っていると思う	80	92			
	業間活動（マラソン・縄跳び）、運動遊びを充実する	家庭と連携し、情報モラル学習とスマートルールの啓発を行う	教職員	児童への意識づけを十分行った	90	93	・ほとんどの児童が業間活動に意欲的に取り組む様子が見られた。今年度もFacebookで活動の様子を配信したり、制限を設けない学校公開を行ったりしたこと、保護者にも児童の様子が伝わったと思われる。	・今後も継続して業間活動を実施し、Facebookでの配信や学校公開等で保護者に児童の様子を見てもらえるようにしていく。児童に対しては、小学校生活を通しての自分の記録等がタブレット端末で把握できるよう工夫する。	・業間活動に取り組む児童の様子をみて意欲が伝わってくる。昨年上昇した保護者の評価も維持されていることから、学校公開やFacebook発信の効果が出ている。 ・マラソン、なわとびと順位がつく中で、自分がかんばったと思えるような手立て（援助）をお願いしたい。 ・運動する子、しない子の二極化がある中で子ども達も仲間とともに運動することの楽しさを理解してきたと思われる。
			児童	業間マラソンや体力づくりに熱心に取り組んでいる	95	96			
			保護者	意欲的に取り組んでいると思う	80	89			
確かな学力	学びを支える学習ルールを身に付け、基礎学力の定着と向上に努める	教職員	漢字や計算の練習を毎日実施し、その点検を行っている	90	100	・どの学年も家庭学習で基礎基本を中心とした課題を設定し、漢字練習や計算練習にはほぼ毎日取り組ませており、児童の提出率も高い。児童の回答数値が低いのは、「熱心に」という文言があるからか自分に対して厳しく自己評価を行ったと思われる。	・今後も引き続き家庭学習を中心に漢字や計算の練習に取り組ませていく。 ・マスターテストに向けて目標をもたせる。	・児童の評価が大きく下がった理由が「熱心に」への厳しい自己評価だけなのか。保護者評価も同等に下がっているのはやはり気になる。家庭学習には十分取り組んでいるようなので、昨年の学校評価にあった「マスターテスト」を学年に応じたものに工夫し改善」の成果の分析などを通して、児童の自己評価を上げてあげられる改善策を期待したい。 ・ドリル学習は基本中の基本で、その後の大きな基礎にもなるのでしっかりと取り組んでほしい。	
		児童	漢字や計算の勉強に毎日熱心に取り組んでいる	90	79▲				
		保護者	漢字や計算の勉強に毎日熱心に取り組んでいると思う	80	84				
	国語科教育を核として、言葉の力や思考力・表現力の育成等を行う	教職員	日々教材研究や授業研究を熱心に行っている	100	100	・朝学習の「言葉タイム」をはじめ語彙力をつける取り組みを学年に応じて工夫して取り組んできた。しかし、語彙力は一朝一夕に身につくものではなく、今後も継続した取り組みが必要である。 ・国語の授業改善に取り組む、特に説明文の学習では、系統性を意識した指導を行った。「説明文の家」や「学習用語」などは全クラスが共通して活用し積み上げができています。	・県国語教育研究会に向けて取り組んできたことは継続して行っていく。説明文だけでなくその他の領域でも6年間の系統性を意識して指導していく。 ・「説明文の家」は、文章構造の理解だけでなく、意見文を書く場合にも活用していく。	・県国語教育研究会に向け、先生方が丸となって研究に取り組み、大きな成果を上げられたとのこと嬉しく思う。 ・国語教育に特化し、研究されたとのこと。国語に対して児童は好き嫌いがあるがゆえにこの結果かと感じた。 ・国語は文化の基盤であり、コミュニケーションは国語力であり、人間関係形成能力の根幹である。この力は自然につくものではなく国語教育を通して体得される。	
		児童	授業が分かりやすく、楽しい	90	88▲				
		保護者	日々の学習内容をよく理解していると思う	80	88				
	全ての教科でICT機器の活用に取り組む	学び合う、認め合う、深め合う場を工夫し、学びを楽しく授業づくりを進める	教職員	話し合い活動や発表活動を計画的に実施し、見直しも適宜行っている	90	93	・思ったことを口々に言うことはできても、学年が上がるにつれて挙手しての発言には抵抗を感じる児童が多い。 ・間違ふことを恐れ、自信がもてず消極的になってしまう。 ・これらの現状から数値が低いと考えられる。	・教師⇒児童⇒教師⇒児童のような授業から、教師⇒児童⇒児童⇒児童のような、児童同士で発言をつないでいける授業を目指す。まずは、道徳の学習から取り組んでいく。 ・大人数の前での発言に苦手意識があるので、ペアワークや小グループでの討議を多く取り入れ、児童の抵抗感を払拭していく。	・「学びあう、認め合う、深め合う授業」での課題を挙げているようだが、何年も継続して初めて成果が見えてくるような難しい課題だと感じる。国語の授業改善や昨年の学校評価書にあった「アナログとデジタルのバランスを考えたICTの活用」を生かしながら、根気強く続けてほしい。 ・やはり、自分の意見を言ったり伝えたり、他人とのやりとりをすることで学べることも多いと思う。
			児童	自分の意見を言ったり、友達のことを聞いていたりすることが、しっかりできている	90	87▲			
			教職員	ICT機器（パソコン、電子黒板、タブレット）を活用した授業を行っている	90	86▲			
児童			タブレットを使って学習することが楽しい	90	95				
朝読書、読み聞かせ、家庭読書の日など読書活動を充実し、本を手にする機会を増やす	朝読書、読み聞かせ、家庭読書の日など読書活動を充実し、本を手にする機会を増やす	教職員	読書活動の習慣化を図る働きかけを十分行っている	90	85▲	・「読み聞かせ」を楽しみにしている児童が多く、熱心に聞いている。 ・朝学習の読書タイムや隙間時間などに熱心に読書する児童がいる反面、全く読まない児童もあり、二極化している。 ・家庭でも読書してほしいが、高学年は平日に読書時間を確保するのはかなり難しい。	・朝学習での読書の時間を週1回から週2回に増やす。 ・月1回の家庭読書の日は継続する。 ・今年度から実施の4～6年生の読み聞かせやブックトークも継続できるように要望する。	・家庭でも情報の収集は新聞や本でなくなっている傾向が多いようで、不安である。家庭でも読み聞かせ時間を持たせるのは難しいだろうか。 ・活字離れの進む今の社会では、読書活動は改善のハードルが高く難しい課題だと思ふ。示された改善策を地道に続けることに加え、二極化した児童への対策も工夫しながら向上をめざしてほしい。 ・近年読書離れが目立っている。家で読むという習慣が薄れているのはゲーム機器等に触れることが多いのが原因だろうか。 ・家で読むのはマンガがほとんどで、家庭読書の日はマンガ以外の書籍を少しでも読んでほしい。 ・読書環境を作るために学級文庫や団体貸し出しなどを利用してほしい。	
		児童	学校や家で（マンガや雑誌以外の）本を毎日読んでいる	80	51▲				
		保護者	学校や家庭でよく本を読んでいると思う	80	38▲				

項目	具体的取組	評価者	質問内容	目標指数(%)	結果(%)	成果と課題	改善策・向上策	学校関係者評価
豊かな心・特別支援	「いつでも、どこでも、何度でも」を合言葉に「明るく元気なあいさつ」を推進する	教職員	挨拶や返事の指導を意図的・計画的に行っている	90	93	・毎朝児童玄関で、管理職や委員会の児童、用務員さんが立っている大きな声であいさつをすることができる。 ・コロナ禍で大きな声であいさつすることが制限されていた頃より良くなっていると思ふ。しかし、すれ違っても会釈すらない児童もおり、意識の向上が必要である。 ・進んで自分からあいさつをすることは大切だと意識づける活動があるとよい。	・教員から積極的に挨拶をして促す。 ・委員会活動であいさつ週間を作り、積極的にあいさつをする機会を設け、取り組んでいく。 ・月目標に合わせて、あいさつを意識的に行う。	・こちらから声をかければはつきり挨拶がかえってくる。評価点が落ちているが私の経験では良くなっていると感じる。 ・3者とも評価が下がったのが気になる点である。「進んでのあいさつが大切と意識づけることが大切」と課題に挙がっているように、自分のあいさつはまだ不十分、身につけていないと意識することが向上への一歩ではないか。心の成長とも関係する難しい課題であるが、コロナ禍の負の遺産をぜひ克服させてほしい。 ・「挨拶」と意識しなくてもできるくらいの感覚でいてほしい。 ・なぜ挨拶をする必要があるのか、その必要性をしっかりと理解させようとして意識づけするとよりよいと思う。 ・登下校の見守りでは大きな声で挨拶をしてきている。大変よくできている。
		児童	進んであいさつをしたり、きちんと返事したりしている	95	92▲			
		保護者	進んで挨拶したり、しっかり返事したりしていると思う	80	83			
	良好な人間関係を築く力や自己肯定感を培い、いじめと不登校の未然防止に努める	教職員	いじめ防止等の対策にしっかり取り組んでいる	100	100	・高学年になるにつれて不登校になる児童が増えている。 ・一担任の問題ではなく、学校全体で対応を考えていく必要がある。 ・スクールカウンセラー、ソーシャルワーカーと学校との連携や児童との直接のつながりは良好だと思われる。	・早め早めの対応と教職員の情報交換を積極的に行う。 ・スクールカウンセラーとの全員面談を次年度も前期に計画的に行う。 ・スクールカウンセラーとの相談が気軽にできるよう、曜日や場所を設定する。	・「高学年での不登校児童の増加」という課題は、丁寧な個別の対応が不可欠なので、先生方の負担増が心配になる。保護者の評価が10ポイント下がっている点は気になるが、教職員と児童の評価が高いので校内の取組には自信をもち、SSWやSCとの良好なかかわりを生かして継続してほしい。 ・児童の結果がすごく高く、とても良いと感じる。 ・不登校の児童が増えているということは、対策が十分ではないということか。それとも不登校になる原因が人間関係やいじめではないということか。日頃子どもが気軽に相談できる窓口が一番必要だと思う。 ・最近のいじめは携帯電話やパソコン介入により一層見えにくいものになっている。いじめはどの子どもにも起こりえる。教室で発生するいじめを許さない雰囲気や浸透させ、傍観者の中からいじめを抑制する者やいじめを告発する者が現れる学級運営をお願いする。
		児童	相手の気持ちを考えて話したり行動したりできている	80	98			
		保護者	いじめや不登校のない学校づくりに取り組んでいると思う	80	87			
	思いやりや感謝の心を育て、笑顔溢れる学校になるよう学校行事、縦割り活動、「なかよしタイム」を通して、心の居場所づくり、絆づくりに取り組む	教職員	思いやりや感謝の心を積極的に指導している	90	100	・昨年度より、なかよしタイムの縦割り班での活動日を増やしたため、例年より班のメンバーとの交流会が増えてよかった。 ・学校保健委員会で「なかよしタイム」の取組の様子を保護者に公開した。今後も周知できるとよい。 ・委員会で縦割り活動を取り入れたら、縦割り遊びの時間が昨年より増えたので来年度も引き続き取り組めるとよい。	・なかよしタイムは、ソーシャルスキルトレーニングとして、取り組んでおり、低学年には難しいお題のときもあるが、前日の給食中の放送で、翌朝、どんな活動をするのかビデオ放送で伝えられ、児童は見通しをもって活動することができている。話すことが苦手な児童も発達の特徴がある児童にも積極的に交流する機会になっており、良い活動であるため次年度も継続する。	・なかよしタイムとソーシャルスキルトレーニングの評価が高水準で維持されているのは大変よい。継続させることが「自己肯定感の向上」「児童同士の学び」「不登校未然防止」などでもきつと良い影響をもたらすとと思う。 ・子どもも「なかよしタイムは楽しい」と言っている。縦割りで過ごす時間はこのまま設けてほしい。 ・自分が苦しくても心の灯を絶やさず、人の思いやりを忘れないそんな人に育ってほしい。
		児童	思いやりや感謝の心が育っている	95	94▲			
		保護者	思いやりや感謝の心がよく育ってきていると思う	80	93			
開かれた学校・連携	ふるさとあわらに愛着をもち、ふるさとを大切に育てる子や、ゲスティーチャー、地域、学年間との連携をさらに深めた体験的学習に取り組む	教職員	ふるさとに愛着をもつ指導や活動に取り組んでいる	90	92	・折に触れあわら市に関する題材を取り上げ学習を進めた。身近な地域に出かけ学習するなど、校外学習を多く行った。学習したことをタブレット端末を用いてまとめ、児童同士で発表を行った。他校児童との交流で「あわらのよいところ」を発表した。また、「あわらの自然を愛する会」「食生活推進委員」「JA婦人部」「市健康長寿課」「市社会福祉協議会」等の協力を得て、より深い学習ができた。 ・今後、「体験を中心にしたふるさと学習」と位置づけ、それぞれの学年が行っている学習内容に系統性をもたせていく。	・ふるさと学習に関するポータルサイトを制作し、引き続き「ふるさと学習」でどのような力をつけたいか」を学年の系統性を持たせながら見直しを続ける。 ・毎年の学習の積み重ねを高学年でどのように校外へ発信していくか考える。	・生まれた、育った地域に愛着心を持たせる事が大切だ。しかし、現在は大人・地域社会に問題があるか。子どもの頃からの地元行事への参加も検討頂きたい。 ・「どのような力をつけたいか」を明らかにして系統性をもたせるとの改善策向上策はよい。様々な外部団体と「体験を中心にしたふるさと学習」に力を入れているのも素晴らしいことである。校外への発信の場の候補として公民館も加えていただけたら嬉しい。 ・ふるさと学習はとても有意義だと思う。このまま継続してほしい。「発表する」ことや「発表を聞く」ことはとてもよい。 ・故郷への愛、そこには人間の故郷がある。人の故郷は家族であり、友人、恩師、学校であると思う。
		児童	あわら市のことが好きになった	90	94			
		保護者	あわら市のことが好きになっていると思う	80	92			
	感染予防策を考慮したうえで、積極的に教育活動を公開する	保護者	学校公開等により、子どもたちの様子がよく分かった	90	92	・C4th「Home&School」の導入により、各種お便りは紙ではなく配信することになった。また、授業参観や運動会などの教育活動の公開は、人数制限を行わないコロナ禍前に戻した。その結果が数値となったようである。	・PTA総会や授業参観など保護者が集まる機会を利用して、各種お便りの閲覧をお願いしていく。 ・こまめにフェイスブックの更新を行う。学年で更新の担当を決めるなど更新の方法を考える。閲覧者数が保護者の50%を超えるよう、学年便り等でPRする。	・今年度の取組が、「保護者の評価が大きく向上」という成果となって現れよかった。Facebookでの発信は保護者も楽しみにされているだろうし有効であるが、担当者の負担感にならないように配慮してほしい。 ・子どもからのお便りの渡し忘れがなく、なることやスマホでどこでも見られるのでありがたい。 ・一方で紙の方が良いという意見はあるのか。
		教職員	情報を迅速・正確に発信している	90	93	・配信する方法に変更しても、すべての保護者がお便りを読んでいないことが課題である。 ・フェイスブックの閲覧者数が徐々に昨年より増えた。		
		保護者	知りたい情報をよく知り得ることができた	90	93			